

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472100375
法人名	有限会社 恵敬 グループホーム
事業所名	有限会社 恵敬 グループホーム
所在地 (電話番号)	いなべ市北勢町垣内482-2 (電話) 0594-72-3733
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 1 月 29 日(木)

【情報提供票より】 (H20年12月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 8人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,300円				

(4) 利用者の概要(12月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2		1 名	
要介護3	4 名	要介護4		2 名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 81 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いなべ総合病院 ・桑原病院 ・とまと歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の南西の鈴鹿山脈の麓に位置し、主要道路や最寄の駅からも近く、小学校、保育園にも近い住宅の一角にある民家改造型の一戸建てで、玄関を入ると居室のドアに描かれたディズニー等のアニメキャラクターの絵が目に入り何となく浮き浮きする楽しさを感じる事業所である。管理者をはじめ、職員は介護経験、人生経験も豊富で包容力があり、要介護度の高い利用者でも車椅子を利用することなく、ゆったりと過ごしてみえる。また、夜間等に不穏になって徘徊する利用者には、ベッドに入って添い寝をすると落ち着くことを学び、全職員が実践するなど暖かみのある介護に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「運営推進会議を活かした取り組み」、「市町村との連携」、「同業者との交流を通じた向上」等は、管理者、職員で話し合い前向きに取り組まれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者、介護支援専門員でまとめた後に、全職員の意見等を聞き事業所として作成された。</p>
	<p>重点項目②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は平成20年5月に開催(20年度第1回目)、出席者は家族代表、管理者が出席し事業所の現状と活動報告、利用状況、行事等を説明され、記録もされていた。家族代表からは感謝の声が出されている。今後に向けては、開催回数を増すとともに市職員等にも積極的に働きかけ、また、地域の人達や広範囲の職域の人の参加も求め事業所の活性化を期待したい。</p>
重点項目③	<p>重点項目③</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関横の壁に意見箱が設置され、出された意見は職員にも周知されている。日ごろから常に電話連絡で、家族等とは話し合っている。苦情、相談の窓口等は、重要事項説明書に明記し意見等が反映できるようになっているが、できれば外部の苦情、相談窓口(市、国民健康保険団体連合会)も明記されるのが望ましい。</p>
重点項目④	<p>重点項目④</p> <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所としては、自治会には加入していないが、地域や近隣の住民には、季節の挨拶をして協力を得るように配慮している。近くの小学校、保育園(幼稚園)等の運動会、発表会に招かれている。また、小学生、園児等の来訪もあり、近隣住民からは野菜、花等の差し入れがある。事業所としては近隣道路の除雪をする等、地域の人達との交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「常に入居者を中心とした暖かい介護に努めます」を運営理念として、地域の中で各機関(病院、主治医)と連携し、地域の人々との交流を図るよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の壁、居間に運営理念(方針)が掲げてあり、毎日の申し送り、月1回の会議や機会ある毎に話され理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域、近隣の住民には季節毎の挨拶をし、事業所の理解と協力を得ている。小学校の行事(運動会等)に招かれたり、小学生、園児等の来訪もある。地域の人達から野菜、花の差し入れもある。事業所としては、近隣の除雪をする等地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者、介護支援専門員でまとめた後に、職員に意見等を聞き、事業所として作成された。外部評価についても理解され、結果については会議等で職員に報告し改善に向けて取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成20年5月に(平成20年度第1回目)を開催し記録もされていた。出席者は家族代表者、管理者等が出席し事業所の現状、活動等が説明され、家族代表者からは事業所に対しては感謝の声が出されていた。開催回数については苦慮されている。	○	今後も地域に根付いたグループホームとして、地域包括支援センター等に積極的に相談し、地域住民や、広範囲の人達(警察、学校、保育園、ボランティア等)の参加を働きかけ、継続的に(2~3ヶ月に1回)開催されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会や、介護保険申請の代行事務等を通じての情報交換はしている。必要に応じて相談もしている。また、市社会福祉協議会との連携もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの日常の暮らしぶりや健康状態については常に、電話連絡をしている。家族の来訪時にも利用者の状況は話している。年2回発行の「愛の架け橋だより」には行事参加の写真、様子を載せ送付している。金銭管理はしておらず、個別の買い物には、事業所が立替払いをして後日家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時、電話連絡の時に話し合い意見も聞くようにしている。また、玄関の横の壁に「意見箱」が設置され、出された意見等は会議等で職員に周知している。事業所の苦情、相談窓口等は重要事項説明書に明記されている。	○	事業所内の苦情、相談窓口は明確に記載されているが、家族にとっては、外部の苦情、相談窓口(市町、国民健康保険団体連合会)も必要であり、重要事項説明書に記載されることが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少ない。管理者は利用者との関係を重視し、職員とのコミュニケーションを図っており、退職者があっても経験豊富な職員が、利用者の様子を見て接しているため影響は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会等の研修には職員が順次参加している。研修受講後は報告書を作成し、会議等で伝達も行っている。消防署主催の救急法、「AEDの取り扱い」等の研修は全職員が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム連絡協議会の役員でもあり、同業者との交流がある。研修の開催等常に情報交換がされサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者本人、家族が事業所を見学され、職員とも接し事業所の雰囲気を知ってもらい、さらに他のグループホームを見て、比較して利用者、家族が納得して入居できるよう支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との日常の暮らしの中で、一緒に掃除やゲームをしたり、食事の片付け、時にはソファに腰掛け昔話をして過ごすこともある。利用者が徘徊等不穏な状態の時は職員と一緒に添い寝等の介護もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの行動、表情から利用者の思い(テレビを見る事、土いじり等)を引き出すように努めている。介護度の高い利用者は自己の意思表示の困難さもあり、職員がゆったりとしたかわりを持つように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思いや希望、日常の課題等を申し送りや、月1回のケアカンファレンスで確認し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のケアカンファレンスで、利用者一人ひとりのモニタリングを行い3ヶ月に1回は見直ししている。状態に変化があれば随時見直しもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診、入院時の付き添い(ガンの手術)、馴染みの理容院への送迎、墓参り、買い物等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(医院)から月1回往診があり、常に24時間体制の対応が可能であり連携も良くとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族の意向を踏まえて、重度化や終末期にむけて医師、管理者、職員等で検討されて「重度化の対応にかかる指針」を作成し重要事項説明書にも添付されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格や意向を把握し、気持ちを損なわない接し方、言葉がけに注意するように意識している。書類等の個人情報の取り扱いも周知されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムは決まっているが、利用者一人ひとりの体調、気持ちを見極め、利用者のペースで過せるように配慮している。昼寝等も利用者の意向にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入は、利用者とは出かけている。調理は職員がするが、下膳、後片付けをしておき、食事が楽しみになるように、職員も一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午前、午後に入浴をしている。入浴を楽しんでもらうために入浴剤を使用したり、入浴時間は希望に添うよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一人ひとりの、できること、得意なことを見出し掃除機がけ、モップがけ、テーブル拭き、畑仕事、買い物、テレビ観賞等を通して、それぞれの役割、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよい日は、事業所周辺の散歩、または買い物、受診の時等に喫茶店、外食する等、外に出る機会が多くなるように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉は立地関係から(側溝が開放)施錠されているが玄関、居室は施錠していない。現在入居者が、不穏状態であり、他の利用者の居室に入る等あり、居室も施錠されている部屋があった。	○	施錠することの弊害は理解されていたが、現在新入居者の状態からは施錠しているが、施錠しなくてもよい方法に取り組むことを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策時「緊急対応手順」が玄関横に掲示されており、毎朝職員は役割分担を確認している。近隣の協力体制も整っている。(調査日の午後、民家の火災の町内放送があった。)また、災害用の食糧、水の備蓄も準備されている。災害訓練も実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
ete					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所で食材は購入し、利用者の希望、季節の食材で献立を作成している。利用者一人ひとりの食事摂取量、水分量については把握されていた。栄養バランスについては栄養士の支援をうけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型で玄関を入ると増築部分の居室のドアにディズニー等のアニメのキャラクターが描かれ、なんとなく浮き浮きし、楽しく明るい雰囲気が感じられた。渡り廊下には大きなソファが置かれゆっくりくつろげるようになっている。玄関先の庭にはテーブルが置かれ、季節の花も咲き居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、ベット、収納押入れ、エアコンが設置されており、利用者の好みの物等も置かれ、よく整理されている。		